

厳原港は対馬島の南東に位置し、古来より中国大陸や朝鮮半島の交易港として知られ、対馬の藩主宗氏の藩船停泊地として栄えた歴史ももっています。

同港は対馬の玄関口として、特定港(港則法)、検疫港(検疫法)、出入国港(出入国管理及び難民認定法)に定められ、釜山港との国際定期航路が就航しており、国際交流が盛んであるほか、郷ノ浦港及び博多港とも内航定期航路で結ばれ、離島生活航路として島民に親しまれているなど、対馬全体の生活を支える重要な役割を果たしています。

現在は、老朽化した岸壁施設等の更新と狭隘化したふ頭施設を再編すべく「離島ターミナル整備事業」を実施しており、より安全かつ安定したターミナル運用が行えるよう人流機能と物流機能の分離を図る施設整備を進めています。



- 1883(明治16)年 長崎税関厳原出張所が設置される
- 1884(明治17)年 対朝鮮貿易港として指定
- 1923(大正12)年 博多への定期航路(貨客船)が就航
- 1947(昭和22)年 海運局厳原支局が設置される
- 1948(昭和23)年 厳原海上保安部が設置される
- 1951(昭和26)年 重要港湾に指定
- 1952(昭和27)年 日韓貿易が始まる
- 1991(平成 3)年 博多～厳原間にジェットfoilが就航
- 2000(平成12)年 釜山～厳原間に国際定期航路(高速船)開設
- 2000(平成12)年 博多～厳原間のジェットfoilが2便化
- 2003(平成15)年 厳原地区離島ターミナル事業 整備開始
- 2011(平成23)年 釜山～厳原間に新たな旅客運航会社が国際定期航路(ジェットfoil)開設
- 2016(平成28)年 釜山～厳原間に就航していたジェットfoilに代わり大型の高速船が就航

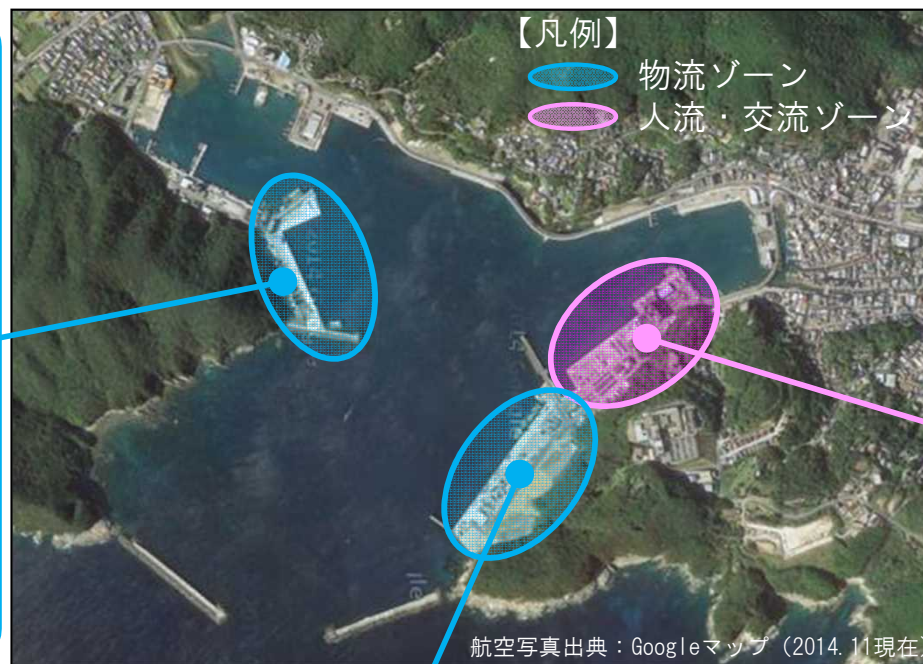
【厳原港】各地区の機能

- 厳原地区(人流・交流ゾーン)は、博多～壱岐～対馬間の国内定期航路及び釜山～対馬間の国際定期航路が就航する島民や観光客の移動を支える人流拠点として機能。
- 厳原地区(物流ゾーン)は、博多～対馬間の国内定期航路が就航する島内最大の物流拠点として機能。
- 久田地区は、主に木材、石材、石油類を取り扱う物流拠点として機能。

くた 久田地区 (物流ゾーン)



◆ 主に木材、石材、石油類を取り扱っている。



航空写真出典：Googleマップ (2014.11現在)

厳原地区 (物流ゾーン)

- ◆ 博多港との間にRORO船が1日2便定期就航しており、日用品や建設資材等を取り扱っている。
- ◆ 貨物船が不定期で利用しており、主に砂利・砂を取り扱っている。



岸壁(-7.5m)に接岸するRORO船「フェリーつばさ」

厳原地区(人流・交流ゾーン)



ジェットfoil「ヴェーナス」

- ◆ 博多～壱岐～対馬間を結ぶフェリー、ジェットfoilによる国内定期航路が就航している。



高速船「オーシャンフラワー」

- ◆ 釜山～対馬間を結ぶ国際定期航路が就航している。

【厳原港】みなとオアシス対馬 厳原(2018年8月4日登録)

設置者	長崎県対馬市
運営者	長崎県対馬市
地域振興の目的	対馬の魅力を発信し、交流人口の増加及び島内消費の拡大を図り地域振興を推進する。
地域振興の概要	厳原港の知名度をあげるため、広域的な情報発信を行い賑わい創出を目指す。



【代表施設】
厳原港国内ターミナル



【主なイベント】
朝鮮通信使



【主な名所】
万松院



【主なイベント】
対馬厳原港まつり



【主なイベント】
朝市



【主なイベント】
万松院まつり



【主なイベント】
対馬厳原港まつり花火大会



【主なイベント】
地蔵盆



【主なイベント】
厳原八幡宮大祭

